

春の景色を描きなさいと言われたときに、緑の野原に土筆(つくし)というイメージを思い起こす方も多いでしょう。春になると可愛らしい土筆がそこら中に顔をのぞかせていた一昔前の景色が思い起こされます。少し温かな風と豊かな緑の香りのする初春の風景に勢いよく成長する土筆のイメージは、やはりこれから始まる春への期待を乗せているようでもあります。昔から土筆は食べられる野草として知られています。とても身近にあって、袴を取る等の下処理をしてつくだ煮やお浸し、天麩羅と様々に食卓に上っていました。しかし最近ではなかなかそのような景色もお目にかかれなくなり、昔は身近にあった土筆も、今や希少な高級食材となりつつあります。最近の研究では土筆に「抗アレルギー」作用があることが発見されたり、ちょうど土筆の季節は花粉が飛び交う季節ということもあって、そんなことからも毎年のように注目される素材でもあります。土筆にはチアミナーゼ、アルカロイド、無機ケイ素などを含むため、多量の摂取には注意しなくてはなりませんが、ほんの少しでもその姿が季節感たっぷりのお料理に現れることでのインパクトも想像ができます。その「土筆」という文字の由来のように春を彩る筆のごとく、心温まる郷愁をも味覚の中に描いてくれるに違いありません。